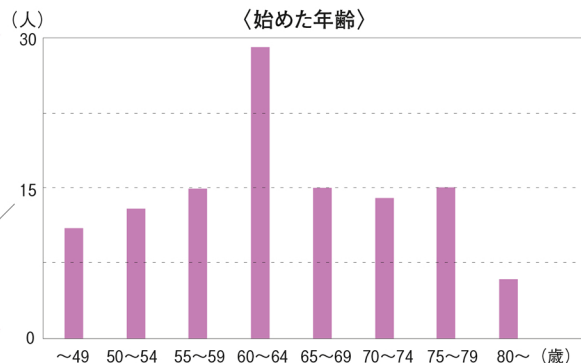


【始めたきっかけ】

- 1位 親の死
- 2位 夫の死
- 3位 自身の病気・怪我・入院
- 4位 友人・知人の死
- 5位 引っ越し・リフォーム
- 6位 片づけや不用品整理をしていて／雑誌や本、テレビ、勉強会で見聞きて
- 8位 家族の病気／退職／子どもの独立

【その他の回答】体力の低下を感じて／子どもに迷惑をかけたくないから／離婚など

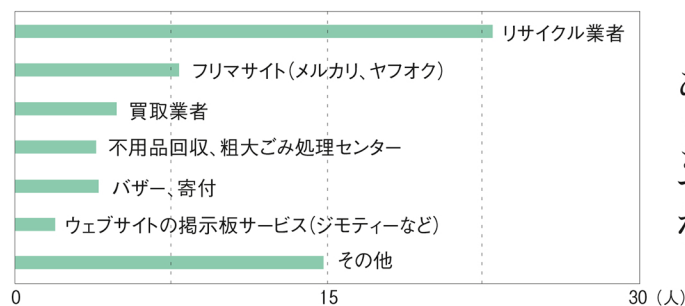


Q いつ頃から、
どんなきっかけで
始めましたか？

Q 利用している
サービスは
ありますか？

【その他の回答】

金融機関の資金相談／墓じまい・仏壇のサービス業者／衣料リサイクルのNPO法人／桐箆の専門業者／リフォーム業者／葬儀社など



Q 終活中の
エピソードを
教えてください

●祖母からもらった指輪をリフォームした。金の高騰で費用は高かったけれど、今後娘も着用できるデザインに仕上がったので、いい判断だった。終活は処分するだけでなく、次代にスムーズに引き継ぐことでもあると思った。(51歳・専業主婦)

●繰り返しがんを再発した私。そのたびに、泣きながら断捨離をした。1年前、家族と話し合って尊厳死宣言書を作成。調べることも多く、何度文章を書き直しながらすこく集中して作ったら、気持ちがすっきりした。そして、意外に死なないものだなと思った。(52歳・パート)

●「死んだ後の話をするなんて縁起が悪い」と夫は終活を全否定する。彼は自分の相続の際、義姉の助けがあったため何の苦労もなかった。だが、一人っ子の私の相続は本当に大変で、残りの人生では、もう何も残したくないと感じた。持ち物は可能な限り整理し、子どもたちには口座番号やパスワードをすべて伝えてある。(53歳・専業主婦)

●自分の写真や学生時代の成績表、賞状など、どんどん捨ててしまったが、ときどき見直しては自分を励ますアイテムとして、もう少しの期間、取っておけばよかったかも。(56歳・専業主婦)

●義両親の死をきっかけに相続した夫の実家を売却。私のきょうだいの住む町で手頃な中古住宅を購入し、転居した。私はきょうだいと行き来ができ、夫は趣味の温泉めぐりを楽しんでいる。夫婦の距離感もちょうどよい。(62歳・専業主婦)

●自治体に出すごみ、業者に出すごみ、寄付するもの……仕分けに疲れました。(70歳・自営業／年金受給者)

●エンディングノートに「娘たちがより自分が先に逝くことを望む」と書いていたのに、3年前、私より先に娘が亡くなった。(76歳・パート)

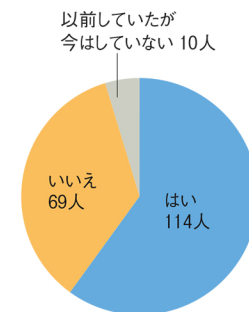
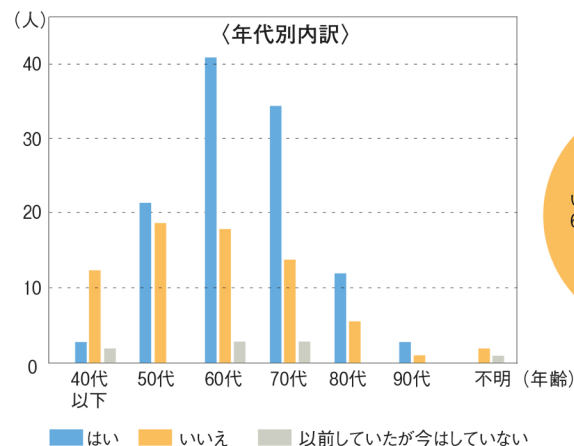
●不要になったハンドバッグ10個をリサイクル店に持っていったら、全部で500円でした。もったいないので2個持ち帰りました。(83歳・農家)

●人づきあいの整理が難しかったが、盆暮れのやり取りをやめるところから始めた。終活は必要。やってみたら安心した。(90歳・専業主婦／年金受給者)

次回は「終活をしていない」人の回答をご紹介します

婦人公論 女性の生き方研究所 vol.9

「終活」あなたはする派？ しない派？ 前篇

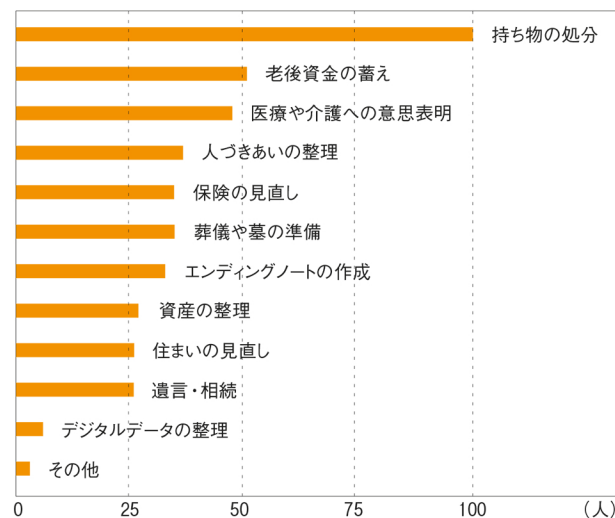


Q 現在、
終活をしていますか？

創刊以来、「女性の生き方研究」を積み重ねてきた『婦人公論』。この連載では、読者のみなさんへのアンケートを通して、今を生きる女性たちの本音をせまります。人生の最後をどうしたいかと考え、準備を進めていく「終活」。しかしその中身は一言で括れないほど多岐にわたります。みなさんの取り組みのほどを聞いてみました

回答者数▼193人 平均年齢▼64・95歳
回答者の内訳▼60代：61人 70代：51人 80代：39人 90代：4人 不明：3人

Q (はいと答えた人は)
何をやっていますか？
(複数回答可)



【年代別】

50代

- 1位 持ち物の処分
- 2位 老後資金の蓄え
- 3位 エンディングノートの作成

60代

- 1位 持ち物の処分
- 2位 老後資金の蓄え
- 3位 人づきあいの整理

70代

- 1位 持ち物の処分
- 2位 医療や介護への意思表示
- 3位 葬儀や墓の準備

80代

- 1位 持ち物の処分
- 2位 医療や介護への意思表示
- 2位 住まいの見直し